

Ka-011

会場：C304

時間：6月25日 15:45-16:00

北部オマーンオフィオライトのレールゾライトーハルツバーガイトについて

Petrology of lherzolite-harzburgite in the northern Oman ophiolite

角島 和之[1], 荒井 章司[1]

Kazuyuki Kadoshima[1], Shoji Arai[2]

[1] 金沢大・理・地球

[1] Dept. Earth Sci., Kanazawa Univ., [2] Dept. Earth Sci., Kanazawa Univ.

<http://kgeopp6.s.kanazawa-u.ac.jp/~kuma>

北部オマーンオフィオライトのマントルセクションにおいて、レールゾライトからハルツバーガイトにいたる一連の岩相変化が、従来考えられているより普通に観察される。レールゾライトは斜方輝石に富み、単斜輝石が肉眼でも観察される。オマーンオフィオライトのレールゾライトについての記載は、主としてオフィオライト基底部近くのものであるが(たとえば Lippard, et al., 1986; Takazawa, 1999) 今回報告するレールゾライトは基底部から離れた地点に産する。これはマントルセクション内の褶曲構造により(道林、本大会) 背斜軸沿いに比較的深部の岩石が露出したと推定できる。この地点では変形の程度が弱く、比較的初生的な構造を保存している可能性がある。レールゾライトからハルツバーガイトに向かって斜方輝石のモードが連続的に減少していることから、両岩相は一連のマグマプロセスにより形成され、その岩相の多様性は上部マントルにおける部分熔融程度の違いを反映している。